



マルバアオダモ

日本自然保護大賞に入選しました！

葦毛湿原とナガバノイシモチソウ自生地で行っている「大規模植生回復作業」が、平成 29 年度日本自然保護大賞に入選しました。

1、日本自然保護大賞

1) 公益財団法人「日本自然保護協会」

日本自然保護協会は、1949 年尾瀬ヶ原湿原保護のため結成された尾瀬保存期成同盟をもとに、1951 年に日本最初の自然保護団体として設立されました。

2) 日本自然保護大賞

日本自然保護大賞は、2014 年、日本で自然保護憲章が制定されて 40 周年という節目の年に創設され、保護実践部門、教育普及部門、子ども・学生部門の 3 部門と、沼田眞賞、選考委員特別賞の 2 つの賞があります。

3) 平成 29 年度日本自然保護大賞入選

- ・平成 30 年 2 月 15 日受賞
- ・入選者名：豊橋市教育委員会、豊橋湿原保護の会、豊橋自然歩道推進協議会
- ・活動テーマ：**土壌シードバンクの埋土種子を活用して、森林化した湿地を再生する。**
- ・平成 30 年 3 月 31 日に東京で授賞式とシンポジウムが行われ、入選者と活動が紹介されました。4 月中には、日本自然保護協会のウェブサイトに掲載される予定です。

4) 葦毛湿原大規模植生回復作業

- ・大規模植生回復作業は 2012 年度（平成 24 年度）から開始しました。毎年 11 月から翌年の 3 月までの毎週火曜日、毎月第 3 日曜日の午前中に作業を行っています。
- ・行政、市民、企業の**三者**が協働して推進している新たな方法の取り組みです。
 - 行政：文化庁、愛知県教育委員会、豊橋市教育委員会（葦毛湿原保護意見交換会）
 - 市民：豊橋湿原保護の会、豊橋自然歩道推進協議会、天然記念物ボランティア等
 - 企業：セブンイレブン記念財団からの助成金（豊橋湿原保護の会が受ける）
- ・保全生態学の成果と考古学の発掘技術を融合させて、重機を使って大規模かつ効率的に作業を進めています。遷移が進み、埋まって森になってしまった湿地を発掘して正確に掘り出し再生させる取り組みです。費用の点でも、最小限の予算で効率的に行っています。
- ・現場での具体的な作業は、教育委員会の文化財保護担当者（考古学）、葦毛湿原調査員（植物の専門家）、ボランティアの三者が協力して進めています。
- ・作業の経過や結果については、『葦毛通信』を月 1 回程度発行し、豊橋市美術博物館のウェブサイトに掲載し、リアルタイムで公開しています。

平成

29
年度



日本 自然保護大賞

入選

豊橋市教育委員会 殿
豊橋湿原保護の会 殿
豊橋自然歩道推進協議会 殿

あなたの活動は、公益財団法人日本自然保護協会
主催の平成29年度日本自然保護大賞において優れた
ものと認められましたのでこれを賞します

平成30年2月15日

公益財団法人 日本自然保護協会

理事長 亀山




日本自然
保護協会
The Nature Conservation
Society of Japan

2、平成 29 年度作業報告 - 2

1) J 地点西側

J 地点西側は葦毛湿原の指定地に隣接する部分ですが、指定地の範囲からは外れています。しかし、湿地はこの部分にも広がっています。今回は地権者の方のご協力があり、この部分についても指定地内と同様の植生回復作業を行うことができました。

右写真の木道右側約 2～3 m が指定地内で、それより右側が指定地外になります。指定地内は水量が多くかろうじて湿地としての形態を保っていましたが、右上写真右側（西側）は暗い森になり、指定地側に覆いかぶさるようになって日照を遮っていました。

今回の作業で、広い範囲の木を伐り、明るい環境が復元されました。下左写真は作業前の状態ですが、林縁部から約 60m × 30m の範囲の木を伐り、森を大きく後退させました（下右写真）。



J 地点西側作業前（北から：2017 年 9 月 7 日）



J 地点西側作業後（北から：2018 年 3 月 10 日）



J 地点西側作業前（東から：2017 年 9 月 7 日） J 地点西側作業後（2018 年 3 月 10 日）



J地点西側（北から：2018年4月20日） J地点西側南端（北から：2018年4月20日）

J地点の木道沿いはかろうじて湿地として残っていた部分です。上左写真の木道沿いにはミズゴケが厚く堆積し、ヌマガヤが発芽しています。右側の切株があるところが暗い森だったところです。この部分はネザサの根の層が覆っており、これを丁寧に除去すれば湿地に戻ります。上右写真はJ地点西側の南西部で森の中だったところで、木を伐ったところ地表面が湿っているのが確認できました。すでに、ミズギボウシが発芽していますが、地表面のネザサの根の層を除去すれば良好な湿地になると思われます。このように森の中でやや乾燥しているところでも、地表面に水がしみだしているところがあり、部分的に地下水位が高いところがあるようです。植生回復作業では、特にこのような部分を注意して丁寧に湿地を復元しています。

2) H地点

H地点は木の伐採作業の途中で時間切れとなりました。今年度は伐採作業を継続する予定です。下左写真はH地点中央部です。林縁部の幅5mほどの木を伐ったところで、中央左側のマツの右側で帯状に裸地になっている部分です。まだ右側に10mほどは伐採していく予定です。大部分は明るい草地として復元される部分です。林縁部はネザサを中心としたマント群落で覆われていました。木を伐る途中ですが、明るくなることにより、キンランが発芽・開花しました。今年の作業で木を伐り、バックホーでネザサの根の層を除去すれば湿地の部分が広がり、その外側には明るい草地が復元できると思います。



H地点作業後（北から：2018年4月20日）

キンラン（2018年4月16日）